

第9回「蔵の会」＜川越散策＞

宮澤憲一（10組）

10月18日（火）、第9回目の「蔵の会」が実施された。毎回趣向を変えて開催されているが、今回の＜お題＞は、歴史の町・小江戸＜川越散策＞。

参加は、当会会長の成澤文和君（4組）、牧野泰晴君（1組）、上原昇君、関賢治君（2組）、神宮進君（10組）、岡田修君、中山正光君（11組）と筆者の8名。筆者は初参加。

当日は前日までの肌寒くぐずついた気候が嘘のように晴れ上がり、この季節には珍しい夏日を観測するほどの素晴らしい天気となった。

集合は＜昼食を済ませて12:10、JR川越駅改札口＞が当初の計画であったが、筆者を除く7名は午前中に集まり、うなぎの名店「いちのや」で贅沢な昼食を楽しんでいた。童心に帰り、早く集まりたい気持ちがあつたのか？家に居たくない事情があつたのか？それとも鰻につられたのか？

まずは小江戸巡回（ボンネットバス）に乗り喜多院へ。車中では運転手が観光案内をしてくれて親切。重要文化財の喜多院では、ゆっくりと徳川ゆかりの寺院内部・庭園を見学。続いて境内の五百羅漢にご挨拶？ 牧野君は自分にそっくりの羅漢がいたとご満悦。中山君からは1体だけ頭部があたたかい羅漢に触れたと報告あり。尚、筆者は昔短期間川越周辺の社宅におり、長女の七五三祝いで喜多院を訪れて以来であり、大変懐かしかった。

その後は、徒歩で移動し川越城本丸御殿見学。ちなみに川越城は築城が太田道真・道灌父子。徳川時代に入り、城を拡張・整備させたのは松平信綱とのこと。知らなかった。

再度巡回バスに乗り、川越名所の蔵の街へ。菓子屋横丁・蔵造りの街並み・時の鐘などの見学や買い物をする。平日だが賑やかで、外国人（特に中国人）の数も多い。

締めくくりは、川越市駅前に移動し会食・懇親会。地元の神宮君が娘さんにご馳走になるという（羨ましい！）中華料理店「香龍」で美味しいコース料理を堪能。仲間の話や競馬の話題等で大いに盛り上がる。

「蔵の会」は、成澤会長の尽力によるところが大きく、今回も大変お世話になった。会長は、なんと4年後の2020年までの訪問先予定（年2回）を既に作成しており驚いてしまう。次回予定は来春5月、真田に縁の深い和歌山・九度山への旅で、皆さん奮って参加いただきたいとのこと。（2016年10月19日記）

以上

【写真1: 川越城本丸御殿玄関前にて】



【写真2: 喜多院の五百羅漢】



【写真 3: 川越名物「時の鐘」は改修中】



【写真 4 散策後の懇親会】

